

今年の漢字、あれこれ

今年もあつという間に師走を迎え、私はついに先日「古希」を迎えた。多くの方からお祝いの言葉をいただいたが、メッセージの最後はどれも「長生きしてね！」だった(笑)。

週刊新潮によれば、ぐるなび総研が毎年「今年の一皿」をこの時期に発表しているらしい。なんと今年の大賞に選ばれたのは「冷凍グルメ」である。一般的な空冷式冷凍ではなく液体凍結という技術を用い、寿司職人が握った寿司が、解凍しても握りたての味わいを堪能できるらしいから驚きである。

一方、日本漢字能力検定協会がこの時期に発表する今年の世相を表す漢字は「戦」が選ばれた。ロシアのウクライナ侵攻により、戦争の恐ろしさと悲惨さを目の当たりにした一年であるから、誰もがこの漢字を選ぶだろうと予測していたが、実際には全投票の5%弱での1位であったらしい。ワールドカップでの「戦」い、値上げラッシュによる生活面での「戦」いも加味されるはずなのに、人それぞれ想いが違うのだろう。

私の今年の漢字は「益」に尽きる。島根県益田市に本校がある明誠高等学校の仕事を4月からいただいて、月の半分ほどを益田市での単身赴任生活を始めた経験は大きい。誰も話し相手のいない夜はさすがに寂しい。初体験のラインのビデオ通話には随分救われた(笑)。「益」と言う漢字には「もうけ・とく」と言う意味もあるが、「役に立つ」と言う意味もある。不登校相談も増え、明誠高通信制での体制改革に取り組み、少しは人のために役にたてた一年であったと思いたい。

さて、小林先生の漢字は「限」だろう。私の不在の中で過酷な仕事量で、その心労は限界に近かったのではないかと本当に感謝しかない。堀先生は「清」だと思う。転職を決意し豊翔という新天地で本当によく頑張ってくれている。体格は別にして「清々しい」がよく似合う。佐伯先生は女性スタッフが一人となり、いろいろ迷い悩む日々の連続だったのではと察する。錯綜する日々から「錯」を選んだ。そして大仲先生は今まで生徒の立場であったのが「先生」と呼ばれ、悩みながらも新鮮な想いを味わってくれたと感じ「鮮」としたい。私の勝手な選択だが。

これからも新たな気持ちで臨みたい。「長生きするぞ!!」(笑)

(丹羽 豊)